

兵庫教育大学附属小学校の外国語活動実践事例

兵庫教育大学附属小学校
副校長 真崎克彦 様



GlobalvoiceCALL

平成 23 年度より、小学校にも外国語活動が導入され、全国の小学校で「英語」の授業が実施されるようになりました。学習指導要領の目標には、「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。」ことがうたわれています。

GlobalvoiceCall (以下、GVC) を主に次の 3 点で活用しています。

- (1) 個々の児童の英語発音を「診断するツール」として
- (2) 装備されている TTS を用いての「教材作成ツール」として
- (3) 児童全体の英語音声の特徴を把握する「データ処理ツール」として

(1)「診断するツール」

GVC は、児童の音声を wav ファイルで自動保存し、エクセル等で計算できるように設計されています。単語だけでなく、センテンス単位でも、イントネーションやアクセントをグラフで視覚的にも判断できます。これらの機能を使うと、授業時間以外、例えば、放課後等、時間に余裕のある時に音声に関する評価をすることが可能です。児童の下校後に、効率よく評価できるので、たくさんの教科を教え、行事や会議で忙しい小学校現場にはとても便利です。

(2)「教材作成ツール」

モデル音声として、内蔵の男声／女声 (Text-to-Speech) や、これ以外にも、ALT (Assistant Language Teacher) の音声を利用することもできるので機能的です。授業では、Kate(GVC 内の女声)と ALT の声で対話モードにて、そのダイアログを構成した教材を使用しました。また、ALT が常時勤務していない学校でも、GVC のモデル音声を使うことで、ダイアログ教材の作成することが可能です。

(3)「データ処理ツール」

GVC に内蔵するモデル音声と児童の音声を比較判定するのが基本的な使い方です。これ以外に ALT 等の録音した任意の音声をモデルとして利用し、児童の声とを比較判定することもできます。GVC では、ユーザー ID を設定、登録することで、複数児童のデータ処理ができるので、単元指導後には、児童全体としての音声の特徴や、指導後の音声の変化について統計的に処理をすることもできます。

GVC の実践でわかったこと

GVC を活用することによって、児童の苦手な発音が明らかになってきました。

一例をあげると、'circle'の、/ə:r/は、児童にとっても非常に難しい発音であるということがわかりました。さらに、児童の音声を細かく調べていくと、発音時に日本語の母音を代用し、「アー」と発音したり、「エー」、「ウー」と発音したりしたために、良い評価点が出ないようであるということがわかりました。

その他、指導前と指導後の音声データをGVCで比較することで、チャンツ導入による、英語音声のリズム獲得への効果についての検証を行っています。今後は、これらの結果をもとに、児童が興味を持ちながら学習できる「小学生用音声教材」を開発していきたいと考えています。

[2012.05.09]



兵庫教育大学附属小学校

<http://www.hyogo-u.ac.jp/element/>



兵庫教育大学附属小学校

Elementary School attached to Hyogo University of Teacher Education